

## 訂正

本誌第124巻第12号掲載の「第117回茨城小児科学会抄録」の演題10において、茨城小児科学会から訂正の申し出がありました。

以下に正誤表を掲載いたします。

p1773 (77) 演題10

誤	正
<p>10. メチルフェニデート内服にて盗癖が出現した症例            松戸クリニック<sup>1)</sup>, 茨城県立医療大学付属病院小児科<sup>2)</sup>            中山智博<sup>1)2)</sup>, 丸山博<sup>1)</sup>, 大黒春夏<sup>2)</sup>, 中山尚子<sup>1)</sup>, 渡慶次            香代<sup>2)</sup>, 中山純子<sup>2)</sup>, 新健治<sup>2)</sup>, 岩崎信明<sup>2)</sup></p> <p>症例は9歳女児。8歳で小脳髄芽腫を発症し、腫瘍摘            出術、放射線療法、化学療法を施行された。廃用症候            群に対するリハビリテーション目的に当院に転院し            た。筋力低下、失調を認め、自立歩行は困難であった。            チームアプローチ後、手すりを使用した歩行は可能と            なったが、失調や体力の低下は残存した。復学に際し、            前籍校への復学が困難となり、前籍校と特別支援学校、            当院との情報提供会議を行い、特別支援学校へ転校し            た。</p>	<p>10. メチルフェニデート内服にて盗癖が出現した症例            松戸クリニック<sup>1)</sup>, 茨城県立医療大学付属病院小児科<sup>2)</sup>            中山智博<sup>1)2)</sup>, 丸山博<sup>1)</sup>, 大黒春夏<sup>2)</sup>, 中山尚子<sup>1)</sup>, 渡慶次            香代<sup>2)</sup>, 中山純子<sup>2)</sup>, 新健治<sup>2)</sup>, 岩崎信明<sup>2)</sup></p> <p>13歳の男児。9歳時に注意欠陥多動障害 (ADHD)            と診断され、メチルフェニデート (MPD) が開始され            た。11歳時にチックが出現したため、当院を受診した。            MPDを36 mg/日から27 mg/日に減量し、チックは減            少したが盗癖が出現した。このためリスペリドン            1.5 mg/日に徐々に置換した。MPD中止後2か月まで            は盗みたいという意思が突然湧き上がることがあった            が、その後消失した。文献的考察を加え報告する。</p>